

いるもの

- 表布 丈や作りたいそでによって変わるので1/10で計算してください
- コンシールファスナー 56cmのもの1本
- 接着芯 20cm～(改造パーツの形による)
- コンシールファスナー押え
- ラックテープ なくても作れるが、あれば仕上がり良くなる。
- 生地合った色の糸 シャツペスパンのミシン糸60～90番

オススメの生地

薄地～中厚地の生地 ツイルやギャバ、アムンゼン、サテン、シルシューデシンなど
色柄の濃いものだと透けにくくていいですよ。

ポリエステルが入るとしわになりにくくなります

透ける色で作りたい場合は下にスリップドレスをお召しになると下着が透けません。

ツイル(綾織)、アムンゼン(梨地織)、サテン(朱子織)等は布の織り方の名称なので、素材(綿麻ポリエステル)や繊維の太さによって性質や厚み、張りが変わります。

地初めてのお店で通販する場合は、事前にサンプルを取り寄せると、イメージ違いが起きません



**本番前に必ず
1/10 サイズを作って！**

テープで組み立ててから
裁断に入ってください！！
勘違いや失敗が格段に
減ります！！



うさこの型紙屋さんが作った型紙には1/10サイズの型紙が
オマケで型紙の余白についています。

これを布を切る前に組み立てると、説明書の理解度が一
気に上がります。

洋裁が、難しく感じるのは理解できないのではなく先が想
像できないからです。

パズルと思ってテープで組み立ててみてください。

たった3～20ピース程度のパズルなんて簡単だと思いませ
んか？

縫う前の下準備

接着芯の貼り方

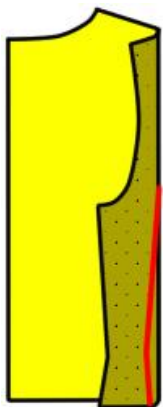


裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをする。
型紙に指定された場所の裏に接着芯を貼る。

詳しくは別紙の【型紙の使い方と縫う前の下準備】参照



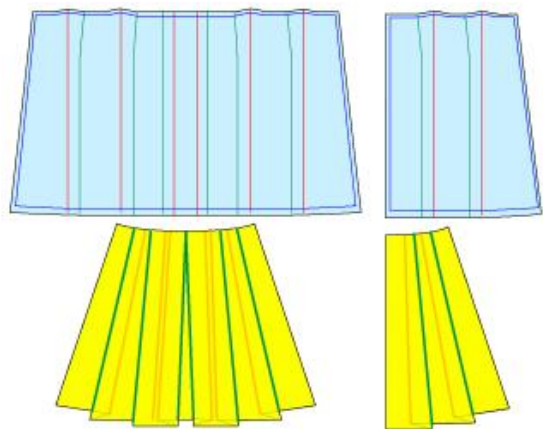
えりには2種類の線があります。
丸い線を選ぶと丸えり。
角ばったえりを選ぶとスクウェアカラーになります。



ダーツの縫い方



ダーツ(立体にするためのつまみ)を縫う。
つまみのところを縦に折って、くの字に縫うと
ウエストを細くすることができます。



プリーツのスカートを作る場合は、布の表から型紙を写す。
裏から写すとヒダが逆になります。
型紙どおりに折る。



印は切りじつけで入れると裏表両方から見る事が出来ます。
また山折と谷折の折り目の糸の色を変え
ると折るときに混乱せずに済みます。

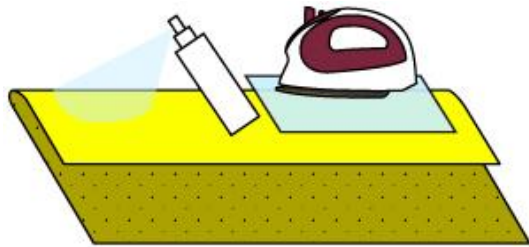
切りじつけの仕方



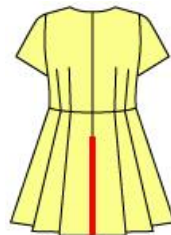
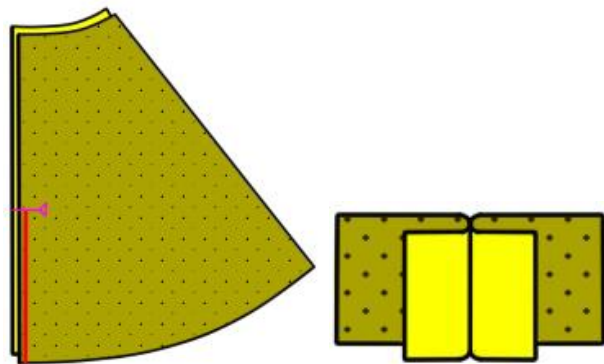
河口 折り目強力加工液「ファッション
ライナー」



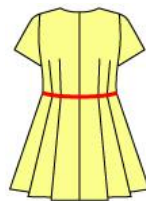
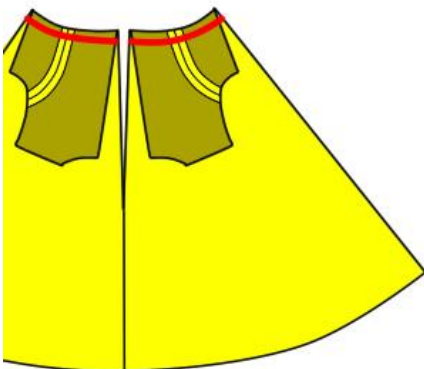
アイロンだけだとヒダが消えやすいので、プリーツ固定液をかけてからアイロンをかけるとヒダが消えにくくなります。



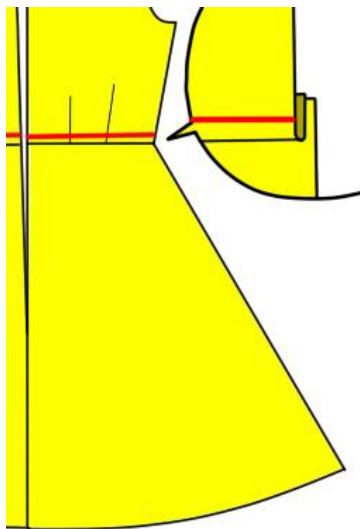
折るときは布とアイロンの間にあて布といってハンカチ程度の厚さのはぎれをはさんでアイロンをかけるといいですよ。そのままかけると赤のスカートの写真のようにアイロンをかけたところが伸びて伸びの差が出てしまいます。



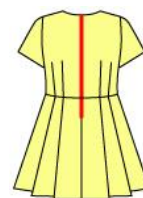
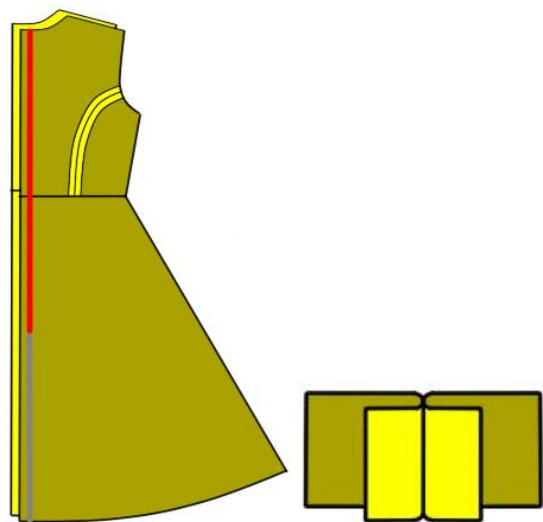
ピンクの印の所を「あきどまり」といいます。
あきどまりから下を1.5cm幅で縫う。
縫い代は左右に折って下さい。



後スカートと後身頃(胴体)を表側同士が内側になるように重ねる。
1cm幅で縫う。
縫い代は上側へ折る。



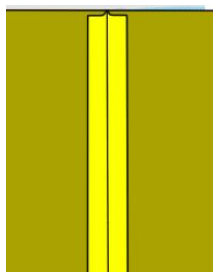
後見頃を起こして、切り替えの縫い代を固定するために、縫い代を上半身側に折る。
縫い目から5mmの所を縫う。



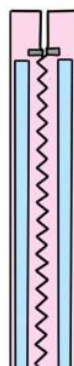
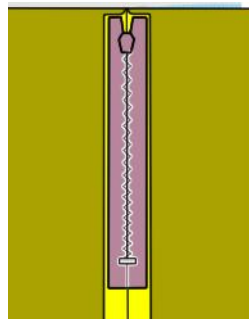
この長さが
ぬい目の長さ

この部分はあとでほどくので、ミシンの縫い目の長さを長くする。
あきどまりの印をつけたところからファスナーをつける部分の縫い代を

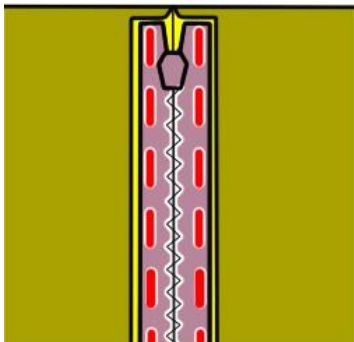
縫う。
これを縫わないと縫いずれて写真のようになるので注意。
縫ったら、縫い目の長さを2～3mmに戻し、アイロンで縫い代を左右に折る。



縫ったら、縫い目の長さを2～3mmに戻し、アイロンで縫い代を左右に広げる。
これを洋裁用語で割るという。



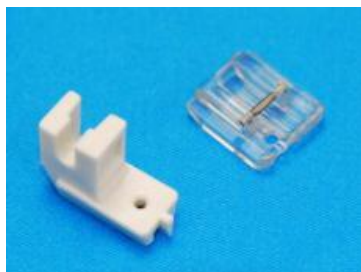
あれば熱接着の両面テープをファスナーの表面に貼る。
裏を上にして生地を置く。
熱接着の両面テープのはくり紙をはがす。
縫い代の上に、裏を上にしたファスナーを置く。
アイロンで固定する。



熱接着の両面テープが無い場合
なければ手縫いで2cmくらいの大きい縫い目でしつけ糸でファ
スナーと、縫い代だけを開きどまりの所まで大雑把に縫う。



糸きりハサミやリッパーで2番目に
縫ったファスナーをつける部分の糸
をほどく。



ミシンの押さえをコンシールファスナー押さえに替える。

このコンシールファスナー押さえは一般的な家庭用ミシンであ
れば数百円で購入ができます。

最近付属のミシンものもあります。

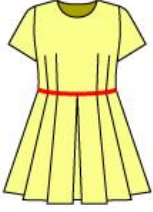
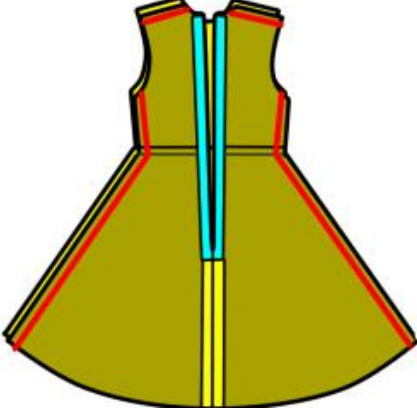
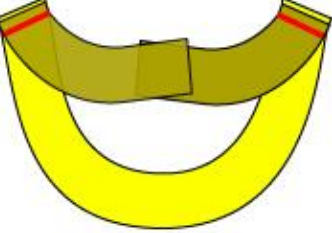
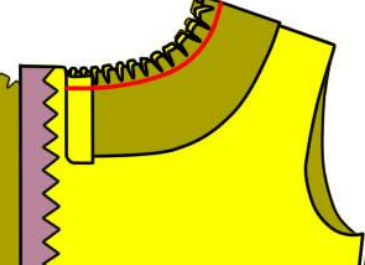
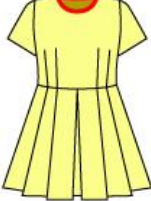
お洋服を作る人は1つ持っておくと便利です。

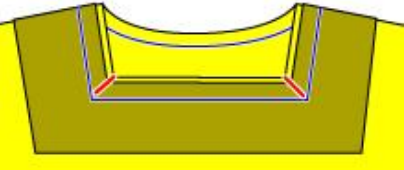
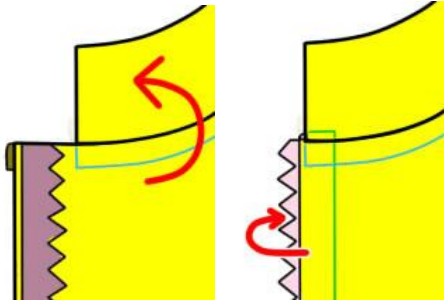
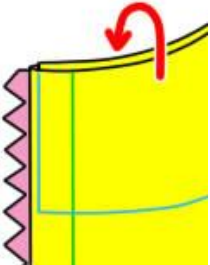
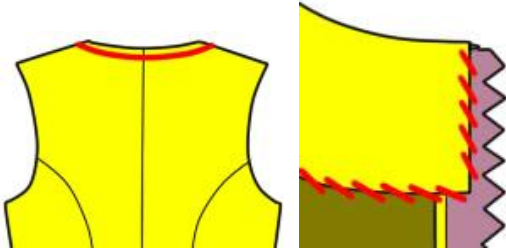
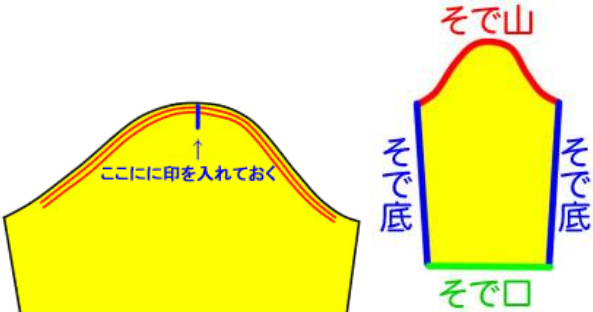
左側は軸から替えるタイプ、右は後のボタン押して押さえを交
換するタイプ。

コンシールファスナー押さえはこのように裏側に溝が入ってい
ます。



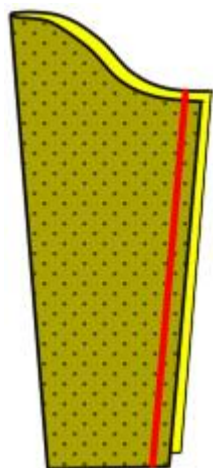
この溝にファスナーのムシ(レール部分)を入れて縫うと、ファ
スナーのムシのそばギリギリを縫うことができます
そして開きどまりまで縫う。

	 前スカートと前身頃(胴体)を表側同士が内側になるように重ねる。 1cm幅で縫う。 縫い代は上側へ折る。
	前見頃(胴体)をを起こして縫い代を押さえるために縫い目から5mmの所を縫う。 縫い代は上半身側に折って下さい。
	  前見頃と後見頃を中表(表同士が内側になるように重ねること)にして肩と脇を縫ってください。 アイロンで縫い代を左右に折って広げて下さい。
	<u>見返し</u>を表同士が内側になるように重ね、肩のところを縫う。
	 えりの上に見返しを重ねる。 ファスナーから3~5mm隙間が開くように見返しの端を裏へ折る。 折ったまま縫う。 えりの縫い代のカーブの所は切込みを忘れずに入れる。

	切込みを入れず見返しをを裏がえすと引きつった感じになります。 (試しに切り込みをいれずに裏返してみてください、そうすると意味が分かります) 縫い目を切らないように気をつけてね。
	見返しを上に向かって折る。 ファスナーを裏に折る。
	見返しを裏へかぶせる。 アイロンをかけて形を固定する。
	えりの端から5mmの所を縫って見返しを固定する。 裏返して見返しを手縫いでまつり縫いをする。
	この型紙のそで山にはそでを立体にする為に余裕が入れています。

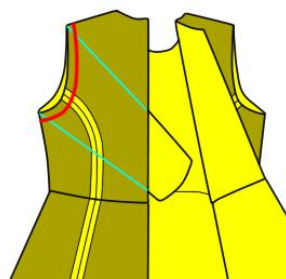
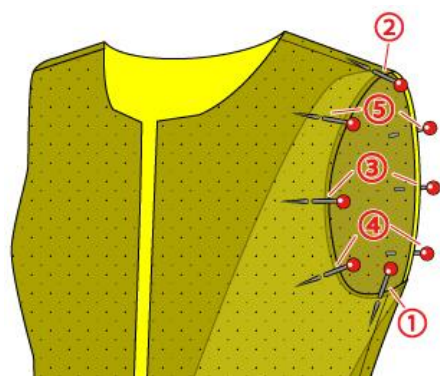


そで山にギャザーを寄せると右側のように立体的なそでになります。

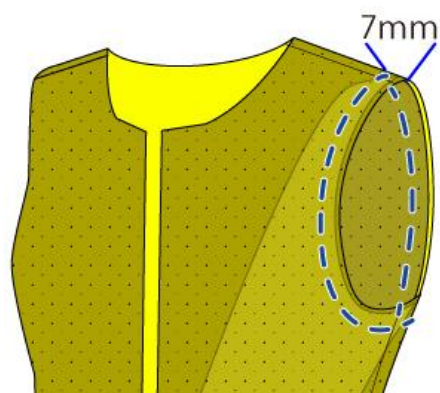


表が内側になるように半分に折る。

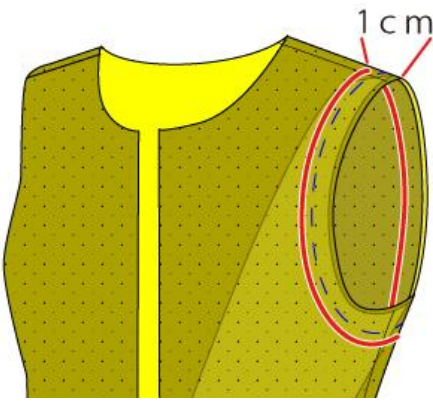
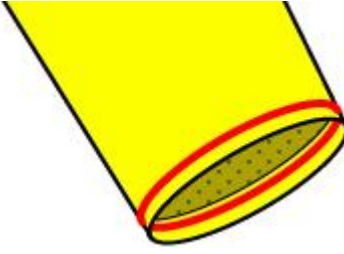
1cm幅で縫う。



そででは表側が見えるようにひっくり返す。
裏返したままの身頃の中にそでを入れる。
脇→肩→印という順に待ち針を刺す。
そでの山のギャザーの糸を引っ張って長さを調整する。



手縫いで端から7mmくらいのところを縫う
縫ったら待ち針ははずす。
全部を手縫いで作る場合はここは省略する。

	端から1cmの所を縫う。 縫い終わったら仕付け糸ははずす。
	試着してそでの長さを確認する。 問題がない場合 アイロンでそで口を2cm裏へ折す。 1. 5cmのところを縫う。 多少の調整は中に折る縫い代の幅を増減して調整する。
	すそを2cm裏側へアイロンで折る。 端から1.5cmのところを縫う。 綺麗なすその上げ方はこちら



えりの後ろのファスナーの上にスプリングホックを付ける。
 ホックの穴に針を通す。
 利き手で糸を持ち、反対の手で針を固定する。
 針に1周糸を引っかけて輪を作る。
 糸を引っ張って輪を締める。



糸を親指で押さえて針を引き抜く。
 これを繰り返す。
 こうすると一針一針が強くなりますし、一か所糸が切れてもすべての糸が抜けたりしなくなりますよ。
 縫う数は決まりはありません。
 だいたい1つの穴につき4～8針程度で充分です。
 太い糸より細い糸の方が強度が弱いので多めに縫う。

仕上げて縫い代にしっかりアイロンをかけて完成です。

仕上げのアイロンはしわをのばすよりも、縫い代にしっかり折り目をつけることが重要です。

必要な材料